

2. 枠組み足場

枠組足場とは、鋼管を門型に溶接された建枠にジャッキベース・筋交・鋼製布板などの部材を組み合わせて、積み上げて構成する仮設足場で手摺り先行型とうある。仮設計画に当たって留意又は検討すべき事項は以下のようなものがある。

- ① 堅枠の高さは2 m以下とし、間隔は1.85m以下とする。壁繋ぎは垂直方向9 m以下、水平方向8 m以下とし、養生材の内容に留意して決定する。
- ② 水平材の補強は最上層及び5層以内に設置し、作業床は隙間の内容に留意して、幅400mm以上、隙間30mm以下になるよう設置する。
- ③ 墜落防止用を考慮して高さ15cm以上、40cm以下のさん、もしくは高さ15cm以上の幅木を取付けメッシュシート等にて養生する。

3. 危険物貯蔵所

現場で使用する危険物は塗料、油類、ボンベ類、火薬等があるが仮設計画の作成に当たり、留意又は検討すべき事項は以下のようなものがある。

- ① 他の仮設建物、隣地の建物、資材置場等への延焼に留意して離れた場所に不燃材料等にて構築し、周囲に空き地を設ける。
- ② ボンベ類の置場は通気に留意して1面は開放とし、他の3面は上部に開口部を設ける。また屋根等の設置により直射日光を遮る構造とする。
- ③ 出入口は盗難、誤使用に留意して施錠設備を設け取扱い責任者を定めて「火気厳禁」の表示と消火器の設置を行う。

問題3 【解答参考例】

1.	作業A3・B3作業名	ウレタン吹付け	2.	作業B5	3日
	作業A3・B3作業班名	ウレタン吹付け作業班		トータルフロート	
3.	総所要日数	30日	4.	①	A9
				②	4日

解説

1. 作業名A3・B3の作業内容・作業班名を記述しなさい。

【解説】

設問の作業A3・B3は作業内容表の作業A2・B2(外部建具設置)の後に行い、作業A4・B4(壁PBボード張り(一部GL工法))が後続作業であり、特に共同住宅では重要な外壁側の断熱作業(ウレタン吹付け)が完了していない場合、GL工法での石膏ボードの作業は出来ない。

したがって、作業A3・B3は「ウレタン吹付け(断熱工事)」である。

【解答参考例】

作業A3・B3の作業名：ウレタン吹付け、作業班名：ウレタン吹付け作業班

2. 作業名B5のトータルフロートを記入しなさい。

【解説】

※トータルフロート(最大余裕時間)：任意の作業でトータルフロートを使い切れれば、後続する作業経路はクリティカルパスとなる(余裕時間0)。

特徴①トータルフロート0の作業をクリティカル作業と呼び連続してつなぐとクリティカルパスとなる。

②トータルフロートが0であればほかのフロートも0となる。

③TF=後続のLFT-(開始のEST+作業日数)

特徴③から 後続のLFT(18)-(開始のEST(10)+作業日数(5))=3

【解答参考例】 3日

